

◎まえがき

教育や保育、療育に関わる人に、必要なものってなんでしょう…？ いろいろありますが、私は、楽天性が重要だと考えています。といっても、深く考えないから気楽にいられる、というわけではないのです。日々の実践は、うまくいくことばかりではありません。「しんどい」こともいっぱいありますよね。でも、「もしかしたら…」「次はこうしてみよう！」と思えるような、「ねがい」が広がる瞬間があります。困難を突き抜ける楽天性です。本書では、学ぶ人のねがいをつかみ、仲間が広がり、実践者のねがいが広がるような、そんな実践に注目しました。タイトルに「子ども」とありますが、18歳を超えた青年・成人期の実践も取り上げています。子ども心のわくわく・ドキドキを大事に、学ぶ人と一緒に作りあげていく実践です。

学びの場は、「すぐができるようになる」ことだけを追求する場ではありません。「一緒に遊びたいな」「私も入りたいな」「話したいな」「助けていな」という、人に向ける自然な関心と、それをもとにしたふれあい、関わりあいが欠かせません。特に、教育、educationと聞くと、学校教育、知育を連想する人が多いと思いますが、その語源や意味の変遷を探究している白水浩信さん（北海道大学）は、語源はラテン語のeducatio（養い育てること）であることを指摘しています。教育は、まずはよりよき生、ウェル・ビーイングを支えるものであることを忘れ